東京歯科大学同窓会々報

139号

昭和46年
2月25日

会長就任のご挨拶

井上　真

今回、はからずも名誉ある東京歯科大学同窓会会長にご選出頂き、身に余る光栄と存じますとともにその責任の重、かつ大なるを痛感する次第であります。

私はもとより浅学非才、その器ではありませんが、副会長及び理事諸君のご協力と、会員皆様のご支援を得てご期待の万分の一にも添うべく、体当りでことにあたる決心であります。

ご承知のごとく前会長福島秀策先生は、一昨年十二月十日ご発病、市川病院へご入院されましたが、その後の経過は良好で、昨年十二月一カ年振りでひとまずご退院、現在はご自宅でご静養中であります。その間、昨年一月より大井清先生が会長代理として活躍されていましたが、昨年八月始めご発病、直ちに市川病院へご入院されました。以後は不肖私が会長代理として会務の運営に当ってまいった次第であります。

以上のように、福島先生は会長ご就任一カ月でご入院。半年後には会長代理の大井先生が入院という事態は、七十有余年の本会歴史の中でかつてない非常事態と申せましょう。

昨年十二月始め、福島先生は母校八十周年及び血脇先生生誕百年の行事も無事に終了したので、こん後は病気療養に専念するため、是非とも会長の職を退きたい旨のかたいお申し出がありました。そこで、直ちに常任理事会を開き、この問題を検討致しました結果、ご病気の経過状態からして誠に残念ではあるが先生のお申し出でを素直にお受けして、ご療養に専念して頂くことが先生に対する礼であろう、特に責任感のお強い先生のことであるから、会務の責任を忘れて頂くことがよりベターであろうという結論に達したのであります。

次いで去る一月十日、全体理事会及び顧問会を開き各位のご意見をうかがいました。そして、いずれもやむをえないとの結論をえました。

執行部としては、この際全員総辞任すべきであろうか、または会長代行制でゆくべきかとも考えたのでありますが、一カ年間会長不在が続き、中心を失いました現在では、会務の執行上にもかなりの支障ありと見受けられるようにも思われ、なかんずく来る六月の参議院選挙を控え、確固たる陣容を立て臨むべきであるとの決意を致した次第であります。

以上のような経過を辿りまして、去る二月七日評議員会を開催し会長改選の件を附議致したのであります。

今、わが同窓会にとって、緊急欠くべからざるものは人の和であろうと思います。即ち、大学といわず、同窓会といわず、八千の全同窓が小異を捨てて大同につく、大同団結してこそ始めて輝かしい伝統を守り、将来にさらに飛躍できるものと信じるものであります。そして、人の和は、お互いの友愛と寛容の精神に因って醸されるものでありましょう。私は、心より母校と同窓会の発展と隆盛を願い、微力を捧げる覚悟であります。切に同窓各位のご協力、ご支援をお願い致しましてご挨拶と致します。

お知らせ

◎六月講演会予告

日時　六月二十日（日）

内容　「公害」問題をとりあげ、その世界的権威である母校衛生学教室の**上田喜一教授**にお願いすることになりました。

詳細　詳細は次号でお知らせします。

◎日曜セミナー

日時　三月二十一日

矯正　「三才から十二才までの咬合推移に関しての諸問題」

講師　**山本義茂教授ほか**

定員に多少余裕がありますから本部までお申し込み下さい。

◎卒業証書授与式

・**東京歯科大学**　三月二十五日（木）午後一時三十分より

・**東京歯科大学衛生士学校**　三月二十七日（土）午後一時より

◎二月講演会は、都合により中止致しました。

福島会長辞任

新会長に井上副会長

臨時評議委員会開催

二月七日、午後一時三十分より母校第四教室において、全国各地より百二十九名の評議員参集のもとに、臨時評議員会が開催された。

並木理事の司会により、開会宣言、点呼（受付記帳）の後、井上会長代理が挨拶に立ち、日頃の協力に対して感謝の意を表し、本日の評議員会開催の主旨について「福島会長は、八十周年記念行事が無事終了したので、今後は病気療養に専念するため会長の職を辞したい旨正式の辞表が提出された。極めて残念ではあるが、先生のためには致しかたないであろう。また大井副会長には、まったく思いがけなくも、一月十六日に逝去された。悲しみに耐えない次第で、深く悼祷の意を表するものである。

このような事態で、六月の重大な参院選挙をひかえ、会長不在のままでは、会務にも差し支えるおそれがあるので、本日皆様におはかりして、新しい会長を選出していただきたい」大略以上のように述べられた。

ついで、杉山学長が公務のため出席できないので、関根学監が学長代理として、大学の現況ならびに将来計画について詳さに説明、同窓会に対し、敬意と感謝の意を披瀝された。

〔井上新会長〕

議長に荒谷龍（広島）、副議長に北村尚信（日本橋）の両君を選出。議事録署名人に遠藤荘三郎、阿保喜七郎の両君を指名、議事に入った。

安嶋理事より、昨年十一月八日より、本年一月末日までの会務報告〔別項掲載〕があった。

ここで、逝去会員に対する黙祷がささげられた。

動議により、議案の修正がありがあり「福島会長辞任承認の件」が上提され、ご病気療養に専念されるためならば致しかたなしとして承認された。

〔関根学監〕

ついで「会長改選に関する件」が上提された。つぎつぎと活発な意見が述べられ、盛んな論議が続けられた。とくに、理事会に対する質問、会長のみを選出する点につき論議されたが、選考委員に一任することとなり、ブロック別に次の諸君が選考委員にえらばれ、別室において協議された。

中島　賢（東北）村越彧雄（城南）
篠山幹一（北陸）桜井　正（多摩）
松宮誠一（大学）北村宗久（城西）
熱田俊之助（城東）荒谷　龍（議長）
梅田寿三（中国）宮下　清（城北）
阿保喜七郎（中央）小池　弘（近畿）
加藤義武（九州）相沢甲正（関東）
橋本　尚（北海道）加藤久二（東海）
オブザーバー北村尚信（副議長）

休憩後、選考委員長小池弘君より、新会長に井上真副会長を推薦することに決定した旨報告され、満場拍手のうちに、井上新会長が誕生した。

〔左荒谷議長、右北村副議長〕

井上会長の就任挨拶があり、評議員より同窓会の法人化と、有給専務理事をおくよう要望があった。

最後に、斎藤静三鹿島後援会長より、現在の活動情況の報告があり、今後一層の協力を要請された。

午後六時三十分、林副会長の閉会の辞をもって全日程を終了した

会務報告

（昨年十一月八日より一月末日まで）

一、会員数　七、八二三名
内名誉会員五三名

一、会員移動　入会者二名
逝去会員三四名

一、役員出張、行事（会報で報告済みであるから省略……広報部）

一、名誉会員推薦規準一部改訂
施行細則第八条、第三項の「勲四等以上に叙勲された者」の項を削除する。

一、監事補充
大西栄蔵監事が逝去されたので、後任について、昨年十一月の評議員会で議長に一任されていたが、山本橿三君に決定した旨報告があった。

副学長、同窓会副会長

大井清名誉教授逝去さる

二月十六日大学葬とり行なわれる

大井清先生には、昨年八月、心筋硬塞のため市川病院に入院され、療養に専念されていた。治療に当った医師団の話しによれば、患者として模範的な療養ぶりで、めきめき快方にむかわれていた。ご退院も間近かと思っていたやさき、一月二十七日、午後零時十五分、脳血栓のため急逝された。

ご全快を信じ、母校ならびに同窓会のため一層のご活躍を期待していたわれわれは、ただ、茫然として、いうべき言葉を知らない。ひたすら、ご冥福をお祈り申し上げるのみである。

大井先生については、いまさら申し上げるまでもないが、大正十二年に母校を卒業されて以来、口腔外科を専攻され、遠藤先生のあとをついで部長、病院長、法人理事、副学長として、子弟の教育に、後進の育成に、また大学経営に偉大な貢献をされてきたことは周知のとおりである。

その他同窓会の理事として、副会長としても極めて精力的な活躍をされ、福島会長ご病気のあとをうけ、会長代理として、全国各地を訪れ、本会発展のため、雄大な構想をもって尽瘁されてきた。

その間、学外にあっては、国家試験審議会、日本歯科医師会、都歯科医師会、口腔外科学会、国際歯科学士会その他数多くの団体の要職を歴任され、円満な人格と、豊富な学識と、卓抜な手腕により目ざましい成果をあげられ、万人ひとしく偉敬するところであった。

なんといっても、そのやさしさと、温かい、真に人情味のあるお人柄に、先生に接する人は魅了されたものである。

正五位、勲三等に叙せられる

先生の功にむくゆるに、国家は正五位勲三等瑞宝章を贈り、母校は大学葬の礼をもってした。

葬儀は、二月十六日、午後一時より青山斉場においてとり行なわれた。この日、東京には、珍しく晴れわたり、温かい日和となり、関係者を安堵させた。

三笠宮、母校、同窓会、同支部、クラス会その他各方面より贈られた生花五十七基、多数の花輪にうずまれた式場で、定刻、松宮教授の司会により厳粛、最大に葬儀がとり行なわれた。

豊川稲荷別院の僧侶九名の入堂、葬送の辞、剃髪、授戒、念誦と悲しみをこめ葬儀が続けられた。

葬儀委員長石河幹武、学長杉山不二、同窓会長井上真、門下生代表長尾喜景の諸先生より、先生の功をたたえ、逝去をいたむ弔辞が述べられた。ついで、四七七通に通ぶ弔電が披露され、葬儀委員長、喪主大井一正、遺族代表大井ふさ、親族代表高橋庄二郎のみなさんをはじめ代表者の焼香があり、葬儀委員長の挨拶をもって大学葬を終了した。

午後二時すぎより、引続き同所において告別式がとり行なわれた。文字通り全国各地よりの会葬者は、およそ千人にも及び、その列は、堂にあふれ、回廊をこえ延々と続いた。先生の交友の広さと、人徳の深さを示す盛儀であった。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げる次第である。

弔　辞

本会副会長大井清先生の突然のご逝去の報は、私ども同窓会会員一同全く青天の霹靂であり、ただ茫然自失するのみでありました。

昨年一月、本会が新役員をもって発足いたしました直後、福島会長の病気入院の緊急事態に遭遇いたし、大井副会長の会長代理の下に、全員一致して福島会長の同窓会発展の理想の実現を期し、専心会務に精励いたして参りました。

大井先生は、ただただ本会の発展のためそのことがひいては母校の発展に繋がることを確信し、八千同窓の団結を唯一の念願として、寝食を忘れ一身を顧みず活動を続けられました。私ども役員ほか関係者一同は、先生の同窓会運

営方針に全面的にご協力いたしてきたつもりでありました。

しかし、不幸にして、昨年八月福島会長に次いで先生もまた過労のため病に倒れるところとなり、市川病院に入院、当分の間は絶対安静の療養生活に入れられることとなり、重ね重ねの不運に私ども役員一同、己の非力の故かと深く反省し、より一層の団結を固め、事業の推進を図ったのであります。

お蔭で、昨年の最大の事業である母校創立八十周年および血脇先生生誕百年の記念諸事業も、大学当局と全面的協力し、無事完了することができ、福島会長、大井副会長のご心労の一部を取り除くことができたことを喜びあった次第でありました。

先生のその後の経過は順調の由と承り、やがて来る春には、再び母校において元気なお顔に接することができ、会務運営についても種々ご指示がいただけるであろうとの、嬉しい便りも聞いておりました。

福島会長の旧臘五日のご退院といい、先生の病気軽快といい、本同窓会にも漸く明るい光が差し込んで来たかとひそかに喜んでいた次第でありました。

今日、ここで、大井清先生の弔辞を同窓会会員一同を代表して読むことを誰が予想したことでありましょうか。

過去半世紀の間、母校のため、同窓会のため、ひたすらに、その全知全能を傾けられてきた温容せまらざる先生の温顔を想い、無情の人生に対し、持ってゆきどころのない憤りと悲しみに身の置きどころもないような気持であります。

このたび、福島会長の病気療養専念のための辞意表明と、大井先生の急逝により、去る七日開催せられた本会評議員会において、図らずも不肖井上が会長の職に推されることになりました。

今、私は亡き大井先生の遺志を継ぎ、本会の隆盛発展のため、役員はもとより全会員心を合せ、一丸となってその実現を期する覚悟でおります。

どうぞ、先生、私どもを草葉の陰からご激励いただきたいと存じます。

ここに、同窓会会員一同を代表し、謹んで先生のご冥福を祈りお別れの言葉といたします。

昭和四十六年二月十六日

東京歯科大学同窓会

会長　井上　真

このたびの葬儀につき、大井家、榎本家、高家よりそれぞれ鄭重な謝意と、母校に対しご寄付がありましたので、ご報告致します。

榎本美彦名誉会長ご逝去

十二月二十六日大学葬

本会名誉会長榎本美彦先生は、昨年十二月十日午前四時三十分ご逝去された。享年八十五才であられた。

先生は、明治十八年九月一日、島根県において出生され、明治三十七年十月医術開業歯科学説試験に合格され、さらに明治三十九年には歯科医師免許証を受けられた。

明治四十一年にカルフォルニア州立大学歯学部に入学され、明治四十四年五月同大学を卒業され「ドクトル・オブ・デンタル・サージェリー」の称号を得られた。

その後も引続き滞米され、特に歯科矯正学について研修され、大正二年八月までサンフランシスコにおいて開業されていた。同年九月に帰国され神田駿河台で開業された。

大正三年九月、東京歯科医学専門学校の教授に就任され、昭和二十四年四月まで多くの子弟、門下の教育に努力されたのである。

昭和五年に発行された「新矯正歯科学」は、歯科矯正のバイブルともいうべき不朽の名著である。

また、母校学校法人の理事、顧問、学会役員その他多くの公職を歴任され母校発展のため偉大な貢献をされた。わが同窓会にあっては、昭和二十四年十一月より三十二年十月まで八年にわたり同窓会々頭として、戦後最も困難な時代を誤ることなく指導され、今日の発展の基をきずかれたのである。

昭和四十年には勲四等瑞宝章の叙勲の栄に浴されている。

あの温和で、おもいやりのある先生のお姿に接することはできなくなってしまった。

謹んで心より哀悼の意を表する次第である。

母校では大学葬をもって先生を送ることになり、十二月二十六日文京区小石川真珠院において葬儀がとり行なわれた。

当日は珍しく澄みきった晴天ではあったが、猛烈な寒さにも拘らず、先生の徳をしたう人々があとをたたず、堂に満ちあふれ、非常な盛儀であった。

松井教授の司会により厳粛裡に式は進められた。葬儀委員長石河幹武理事長、杉山不二学長、福島同窓会長、門下生代表山本義茂教授の弔辞が述べられ、代表者の焼香があり、葬儀委員長の挨拶をもって葬儀を終了し、引き続き午後二時より告別式が行なわれた。

永遠のお別れを、それぞれの感慨をこめて焼香する長い列が続いていた。

おわかれの言葉

榎本先生に最後におめにかかったのは、去る十一月八日の大学創立八十周年記念式の時でした。

ご高齢とは申せ、お元気な足どりで式場へお見えになり、私共一同感嘆して先生をお迎えしたのでした。

それから約一カ月、十二月十日に突如として先生の訃報に接し一同愕然といたしました。ご入院なさったことすら知らなかったのです。

その日私は先生のお宅へ伺い、安らかに眠っておられた先生に、お別れのご挨拶をいたしました。ご家族の方から、何のお苦しみもなく、大往生を遂げられたということを伺い、ひそかに安堵の胸をなでおろした次第です。

榎本先生は、東京歯科関係の学校のご出身ではありません。それにも拘らず東京歯科との関係は極めて深く、あるいは教授として、あるいは法人評議員、理事、更に顧問として、将又同窓会の会頭として、終始一貫、東京歯科発展のために、ご尽瘁賜わったのであります。

先生は資性温厚、しかも態度は毅然として常に正義を愛し、曲ったことの大嫌いな人格高潔なお方でした。

私共は何か心に迷いを生じたときは、いつも先生のご意見を伺い、それを指針として今日まで過してまいりました。私共は、心のよりどころを先生に求めてまいりました。先生のご指導により、お蔭をもって過去に大きな誤ちなく、今日まで大学と共に過してまいりました。

私共は、今先生を失ってただ呆然としております。しかし、それではいけない、更に心を引きしめて、先生のお教えを固く守り、いよいよ大学のために献身することを心に誓い、先生のご恩に報いたいと思います。玆に私共の決意を披瀝しておわかれの言葉といたします。心からご冥福をお祈りいたします。

昭和四十五年十二月二十六日

東京歯科大学
学長　杉山不二

弔辞

本日ここに、学校法人東京歯科大学顧問、同窓会名誉会長榎本美彦先生の大学葬を執り行なうにあたり、先生の御霊前に、東京歯科大学同窓会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生と本学、および同窓会との深く、永い関係については、今さら申し上げるまでもありません。先生は、歯科矯正学の権威として三十五年の永きにわたり本学の教職にあり、私どもの多くは、まず、矯正学の世界的権威として、先生の温顔と、その先生を包む学識豊かな雰囲気に魅せられたのであります。

しかるに、昭和二十年、太平洋戦争が敗戦に終り、日本の国土は廃墟と化しましたが、その廃墟の中から立ち上った東京歯科医学専門学校同窓会は、十二月に、会頭に校長故奥村鶴吉先生を、副会長に榎本先生をお選びいたし、新しく生れ変るべき日本の歯科教育の基礎を築くために、学校と同窓会は、打って一丸となって、その活動に入る態勢を整えていたのでありました。

さらに、先生は、昭和二十四年十一月には、東京歯科大学同窓会頭に推され、以来、昭和三十二年十一月退任されるまでの八年の間、制度的にも経済的にも、最も困難を極めた時期に大学当局と力を合せ、今日の隆々たる東京歯科大学発展への礎石を打ち込まれていかれたのでありました。

優れた学者であり、優れた臨床家として終始されてきた先生のどこから数千の同窓を一糸乱れずとりまとめ、同窓会をして、大学の再建、大学院の建設へと惜しみない協力態勢を作り上げていった力が生み出されたのでありましょうか。驚くほかはありません。

それは、先生の私心のない母校愛、さらに、再建されるべき新しい日本の将来の歯科界に対する同窓へのゆるぎない信頼が、この最も困難な時期に、最も困難な仕事を完遂していったということを、私どもは信じております。

先生は、会頭退任後も、顧問、名誉会長などとして絶えず同窓会に対し、適切なご助言、ご指導を賜わって下さいました。同窓会員一同は、先生が、百歳の齢を全うせられ、常にご指導いただけることを期しておりました折柄のご急逝に、呆然とし、まことに痛惜に耐えないところであります。

しかし、われら同窓会員一同、ここに決意を新たにして、先生のご遺志を継ぎ、本学同窓会の一層の融和と発展とをお誓いいたす次第であります。

昭和四十五年十二月二十六日

東京歯科大学同窓会
会長　福島秀策

高達名誉会員ご逝去

一月九日、市川病院葬

かねてより前立腺がんとそれに継発した腎不全のため市川病院に入院加療中であったが、医師団の懸命の努力もむなしく、昨年十二月二十六日遂に同病院において逝去された。

故高先生は、明治二十七年十二月十日、福岡県にお生れになり、大正八年東京歯科医学専門学校を卒業された。国家的使命感をもって朝鮮に渡られ、朝鮮総督府慈恵医員となられた。

昭和八年朝鮮公立専門学校教授に就任されるとともに、大邱医専の教授をも兼任されて、歯科学の講義を通じて幾多の優秀な医師の教育に尽瘁された。

その間数多くの栄誉ある勲章、位階勲等を授けられ勅任官として遇せられ、その偉大な業績にむくいられたのである。

昭和二十二年十月、終戦により帰国されたが、故花沢鼎先生の懇望により母校の教授に就任されるとともに市川病院の歯科診療主任となられ、今日の市川病院の基礎を確立されたのである。そして、東京歯科大学評議員、市川病院の歯科部長、副院長を歴任され、診療に、医局員の指導に、病院の運営に多大の貢献をされた。

昭和三十七年五月、定年により退任されたが、引つづき嘱託として以前と同様、元気に勤務されていたが、年もおしつまった十二月二十六日、遂に不帰の客となられた。

同窓会は、昨年十一月の総会に

おいて、先生を名誉会員に推薦したばかりのことである。

先生は、いかにも九州人らしく、古武士の如き風格があり、ことのほか日本酒を好まれ、興いたれば黒田節を披露されたものである。一面植物を愛し、先生の室にはいつも珍しい鉢植がならんでいた。嗚々悲しい哉。

母校においては先生の功績を偲び、市川病院葬としてお送りすることとし、一月九日、市川病院において葬儀がとり行なわれた。

定刻一時、渡辺教授の司会で開式。読経の後、葬儀委員長松尾武夫市川病院長、福島秀策同窓会長（井上会長代理）、市川市歯科医師会長阿部和夫、大邱医専同窓会長、友人代表杉山不二学長の切々たる弔辞が述べられ、会葬者に新たな涙をよんだ。八十五通に及ぶ弔電が披露され、読経の続くなかを代表者による焼香があり、葬儀委員長ならびに喪主の挨拶で閉式した。

午後二時より、最後の別れをつげる告別式が行なわれ、母校教職員、同窓、歯科医師会員その他の方々が続々とつめかけ三時まで続けられた。

冬ばらの白一輪に合掌す

燕童

◇編集部よりお詫び

臨時評議員会の報告、ならびに大井清先生の大学葬の記事を掲載するため、本号の発行が遅れたことをお詫びいたします。

新年交歓会開催

恒例により、元旦十一時より、母校第一教室において、新年交歓会が開催された。

山本教授の司会により、杉山学長、井上同窓会々長代理の年頭のご挨拶があり、堀江名誉教授の発声で乾杯し、新年を寿ほぎ、なごやかな歓談がつづけられた。

本部短信

◇役員出張・行事

12月5日　常任理事会
12月6日　関東地区支部長会
　　井上会長代理・安嶋理事出張
12月10日　日本橋支部総会
　　木村(吉)理事出席
12月12日　日曜セミナー（市川病院）坂登理事担当
12月12日　榎本名誉会長葬儀
12月13日　東海地区支部連合会
　　林副会長・安嶋理事出張
12月14日　丸ノ内支部総会
　　井上副会長出席
12月14日　大学支部総会・井上会長代理・木村(吉)・津島両理事出席
12月14日　常任理事会
12月15日　四谷支部総会・安嶋理事出席
12月25日　会報138号発行
12月26日　榎本名誉会長大学葬
昭和四十六年
1月1日　新年交歓会
1月9日　高達名誉会員市川病院葬
1月13日　千代田支部新年会
　　井上会長代理出席
1月15日　岡山県支部総会
　　安嶋理事出張
1月15日　広島県支部総会
　　高木副会長出席
1月16日　品川支部新年会
　　井上会長代理出席
1月23日　神奈川県支部新年会
　　井上会長代理・安嶋・渡辺両理事・原事務長出張
1月23日　荏原支部新年会
　　清藤・木村(吉)両理事出席
1月23日　京北同窓会総会
　　長岡理事出席
1月24日　山形県支部総会
　　山本理事出張
1月25日　医政第二部会
2月7日　評議員会

◇叙位・叙勲追贈

正五位勲三等瑞宝章追贈
　故　大井　清殿
従五位勲四等瑞宝章追贈
　故　懸田初男殿

◇訂　正

会報138号叙勲者受章者芳名欄の中の勲五等双光旭日章久保田健太郎殿は久保内健太郎殿の誤植につき謹んでお詫び申し上げます。

◇支部長交替

深川支部一月一日付22二階堂則彦
広島県支部一月十五日付
　大14荒谷　龍
福島県支部二月十四日付
　大12小汲　貢

逝去会員

18.9	元文信章	四五・一一・二三	福井県
9大	武藤　実	四五・一一・二八	福島県
6	加藤　桂	四五・一一・二六	埼玉県
推	松島文吉	四五・一一・二九	葛飾区
医	平山多盛	四五・六・二九	広島県
医	岡村景茂	四五・一二・五	高知県
名	榎本美彦	四五・一二・一〇	千代田
医	柳　清作	四五・一二・一七	空　知
医	中原冨一朗	四五・一二・一	大　森
15大	平山　篤	四五・一二・一七	栃木県
8大	池野谷初太郎	四五・一二・二三	浅草
9大	石本義明	四五・一二・一七	宮崎県
推	佐藤信義	四五・一二・一四	静岡県
12推	炭山正樹	四五・一二・一七	香川県
大	石沢清雄	四五・一二・九	奈良県
推	鈴木源次郎	四六・一・八	千葉県
8大	高　達	四五・一二・二六	大　学
推	広橋弘信	四六・一・二	板橋区
12大	鈴木義三郎	四六・一・一三	千葉県
推	大村兼二	四六・一・一五	長野県
7大	川村民治	四五・七・二四	大阪府
4	生駒　慧	四五・八・三	大阪府

謹んで哀悼の意を表します。

母校より

東京歯科大学学会（例会）

第一八三回東歯学会は、二月二十日、午後一時より、母校講堂において開催された。

五十九題の演題について、二会場に分れて講演があった。

学位記授与

歯学博士

奥山　雅（口腔外科）第一七一号
成瀬隆雄（矯正）第一七二号
難波　修（保存）第一七三号

以上昭和四十五年九月七日

真坂信夫（理工）第一七四号
西山嘉重（理工）第一七五号
入江靖雄（放射線）第一七六号
磯貝昌彦（口外、愛知学院大）第一七七号
近藤　武（衛生）第一七八号

以上昭和四十五年十月十二日

鈴木　隆（生理）第一七九号
小林則夫（解剖）第一八〇号

以上昭和四十五年十一月九日

江川郁夫（病理・I）第一八一号
関口恵造（病理・I）第一八二号

以上昭和四十五年十二月七日

菊地茂典（解剖）第一八三号

以上昭和四十六年一月十一日

学位授領

永井淳夫（昭和二十七年卒）

昭和四十五年七月二十二日付医学博士。三重県立大学医学部、解剖学教室。

人事

辞職

教授　三崎鈔郎（歯科放射線）45・11・30
講師　石山照雄（保存）45・12・30
講師　水川　洸（歯科放射線）45・12・31
講師　奥家信一郎（小児歯科）45・12・31
講師　織田正也（市病内科）45・12・7
助手　小池　昭（市病外科）45・10・31
助手　市村賢二（矯正）45・12・31

新任

図書館長　金竹哲也　45・12・1
東歯大病院副院長　山本義茂　45・12・1
歯科放射線部長　丹羽克味　45・12・1

助教授昇任

講師　丹羽克味（歯科放射線）45・11・11

休職

講師　高江州義矩（衛生）45・10・1～46・9・14

海外往来

木村吉太郎教授　台湾歯科医学総会、同窓会総会等に出席のため、昨年十二月三十日出発。一月十五日帰国された。

上田喜一教授　ハワイにおける重金属による環境汚染の人体影響セミナーに出席のため、一月三十日出発。二月十五日帰国された。

武藤暢夫講師（市病耳鼻科）ダラスにおける第十回国際オージオロジー学会に出席のため十月十一日渡米、十一月初旬帰国。

支部のうごき

▼新潟支部

総会

紅葉が色づき始める長岡温泉で、去る十月十七・十八の両日、新潟支部総会が開かれた。四時半から外科の氏家助教授による学術講演〝困難なる抜歯について〟があり、次いで記念撮影の後宴会に移る。出席会員は六十余名、近来にないが宴会である。来賓の挨拶乾盃の音頭で幕開け。母校の近況を尋ねたり、クラス・メート同志で集まったり、宴は延々として尽きない。

明けて日曜日、九時に総会開始。日が良いのか、出席会員は前日の半数以下、柏崎の井比先生が議長に選出される。

○支部長挨拶参院選を来年に控えている。先輩の鹿島氏が出馬するが、会員諸氏にはより以上の奮斗を望むと。

○本部来賓挨拶林副会長立って、母校の近況を報告される。続いて安嶋理事は会則を変更した趣旨を述べ同窓会の近況と、母校創立八十週年記念並びに血脇先生・生誕百年記念行事について説明。参院選には、ぜひ、絶大な協力とご支援を賜るよう力説された。

○庶務報告、会計報告も異議なく承認される。支部会員は現在百七十六名を数える。次いで物故会員に対し、しばし黙悼を捧げる。

○議事々項

一、会費の件　現在のままに据え置き。

一、特別会費の件後援会費とは別に、今回特別のもの。

一、支部長改選の件、勝井支部長は辞意固く、自分の要望をぜひ受け入れて貰いたいと。同時に五十嵐副会長も辞意をもらされる。

これについて選衡委員が五名選ばれ、選衡の結果、新支部長に新潟の広瀬正威先生、副支部長に三条の八百枝正一先生が選ばれ、高田の永井孝之輔先生は留任と決まった。

前支部長並びに前副支部長の挨拶、続いて新支部長が立って挨拶される。

○協議事項

一、死亡共済金の件、現在の五千円を一万円に引き上げる。災害の場合は状況判断による。

一、次期開催地の件、新潟という声が多数あったが、支部本部に一任され、解散した。

（新潟　小林記）

出席者

（高田）永井孝之輔、丸田五十三
（柏崎）井比孝（新井）増村栄一
（長岡）古田島耕三、山本茂樹、野中一男、稲川林之助、大平幸民
田村忠昭、木村茂、永井嘉紀、星野幸一、五十嵐辰伍、田村博親、上松和夫、内山亮治（小千谷）小

船井郁夫、鈴木義一、鈴木義隆（小出）星隆司、星藤哉（中魚沼）富井政光（三条）大溪良夫、市川喜一、小林昌衛（南蒲・加茂）永井淳夫、渡辺正男、八百枝茂、八百枝勝、二階堂和彦（見附）坂田健一（西蒲）佐藤貞（新潟）赤柴俊也、石田重雄、五十嵐重之、宇佐美達、岡田信雄、岡田一郎、勝井義介、勝井健介、小林茂、清水直彦、玉井秀昭、竹花和朗、長谷川寛、広瀬正威、巻国真義、三村一郎、山崎勝栄、山崎直幸、星野敬（中東蒲原）倉嶋紀夫、五十嵐一之、丸山勝彦、亀島保、西潟ミサヨ、小見尚（新発田）佐藤泰彦（岩船村上）高原康、渡辺秀夫

▼近畿連合同窓会

秋も終りに近い十一月二十三日洛中洛外は、連休で紅葉狩りに訪れた人々で溢れんばかり、京都グランドホテルに於て近畿連合同窓会が京都府支部の当番で開催された。午後一時半には二階ロビーは同窓で一杯になり、小池弘支部長の案内で近接する西本願寺秘宝を見学、御影堂に参拝合掌し、虎溪の庭とよばれる池泉式

枯山水の庭園（名史挑山）を初め、書院（国宝）伏見城の遺構、対面所（鴻の間）は秀吉が諸侯を謁見した間、障壁画は狩野探幽の筆、装束の間、菊の間、雁の間、雀の間、北能舞台（国宝）飛雲閣（国宝挑山）これら雄大絢爛たる建築古美術を観賞して感銘を深くしてホテルに戻った。総会は三時より梅の間で井上同窓会会長代理、杉山学長、石川教授、福岡理事、大塚監事、斎藤静三後援会会長を迎えて木本至児司会で開会された。紫のT・D・C近畿連合同窓会旗が正面に掲げられピアノ伴奏のもとに国歌並びに校歌を斉唱、続いて、物故の方々に対して黙祷を捧げた後、小池支部長が登壇して近畿の同窓が四十余年間連綿と続けて来たこの連合同窓会、強い団結をと開会の挨拶が述べられ、井上会長代理が同窓会本部の現況、横たわっている諸問題の報告をされ、次に杉山学長が挨拶、最後は斎藤静三後援会長より来年の参議院議員選挙を控えて、その準備の現況報告があり同窓各位の努力によって必勝を期したいと要望された。つづいて次期当番に和歌山県支部を全員一致で決定、同支部長代理の明楽浩氏が次期開催地引受の挨拶あり、講演に移り、母校保存学教授石川達也先生の「抜髄即時根管充塡の理論と実際」と題しての約一時間三〇分にわたるスライドを交えながらの学術講演を静聴し、建部広守副支部長の閉会の挨拶で総会を終り、記念写真を撮り、室を「紅葉の間」に移して荒木賢司会のもとに祝宴が開かれた。藤原滋賀県支部長の乾杯の音頭で始まり祇園舞妓名妓の踊、宴酣に陶酔、無情晩秋の洛陽速に、名残りを惜しみつつ井上会長代理の発声により万歳を唱和して散会した。参加支部同窓大阪（二〇名）兵庫（十八名）滋賀（十七名）和歌山（六名）奈良（二名）京都（二十四名）

（荒木賢記）

▼愛媛県支部

祝賀会

西村一雄先生の叙勲と、西田信一先生の授賞との祝賀会が十一月二十八日県歯立「日月荘」に於て開催されました。

西村先生は七十三才、杉山学長と同期であり、西村正雄助教授の父君であります。秋の叙勲に勲五等双光旭日章を受章されました。

先づ佐藤支部長が西村先生の生い立ちから、今日迄の功績に就いて紹介され、この道五十年の御努力を讃えました。

次に正岡県歯会長より先生の叙勲は県歯推薦の第一号であることを強調され、つづいて親友坦田先生より、先生の若き日を語られました。

次に万雷の拍手の裡に、佐藤支部長より記念品の贈呈があり、つづいて西村先生が勲五等双光旭日章を胸に吊げ、勲記を手に、謝辞と共に宮中での拝謁の感激を語られました。

真に先生の姿は清廉一筋に人生を生き抜かれた姿であり誠に感勤そのものでありました。

祝電披露の後清水清先生の乾杯で宴会にうつり、先生の功績を讃えつつ夜更迄歓談はつづきました。

なお、西田信一先生は四国地区歯科医学会の席上で、永年歯科界に貢献された功績により感謝状を送られました。当日はたまたま御不快で御出席になれなかったので支部長と幹事がお宅へ伺い、祝詞と記念品の贈呈を致しました。

出席者

西村一、松岡一、大井茂、友近長

一、浜堅造、中島佐三、正岡健夫
馬嶋博、高市正浩、湯口芳一、原
達也、大野喜市、青野幸雄、佐伯
和彦、平田末勝、渡部幸男、菅昇
菅朝照、西岡元年、若林忠雄、塩
崎光雄、増田豊、玉井喜平太、丹
昭三、越智幹夫、久米稔、久保哲
坦田豊造、佐藤一、佐藤英樹、松
木朝夫、中西憲正、藤沢暁美、加
地新一、山本八郎、新谷武敏、高
岡好春、高岡宏、高岡聖、日浅敬
三、上田尚一郎、大野実、牧野桂
三、長山陽吉、久保田謙次郎、霜
村静夫、長山誠之、清水清
（松木記）

▼山形県支部

昭和四十六年の定時総会、ならびに役員会は一月二十三日（日）午後二時から山形市四山楼において開催された。同窓会本部より山本為之理事を迎へ、小林与兵衛顧問をはじめ多数会員の参集のもとに、決算、予算などの重要案件を審議した。いずれも原案の通り可決されたが、同時に庄内地区の学会を含む前年度の報告を承認した。

とりわけ四月の支部長会、八月の東北連合会（仙台）十一月の評議員会を中心とする一年間の会務報告、また執行部としての山本理事の所感に対して、隔意ない意見を交換しあった。特に五月に予定されている東北連合会と六月の参院選挙には格段の熱意を傾注すべきことを誓いあった。会議を終って懇親会（写真）に移り、「校旗は燦たり」を合唱したのは小林与兵、後藤精、結城、坂田、高橋八尾形、小林吉、大橋、豊田、斎藤高橋統、小林与、大浪美、佐藤勤林仁、大坪兄弟、長崎、清水忠、東海林修、木村昭、奥山誠、牧野伸の諸君。散会は八時であった。

クラス会だより

仁蜂会

昭和十五年卒

◇**「卒業三十周年記念」**とあって幹事佐藤俊郎、吉井久両君の周到な準備よろしく十一月七日夕べ、ホテルニュージャパンに参るもの実に七十名、母校より関根、松宮両教授を迎えて華々しく総会と懇親会を開いた。北は北海道からの高橋尹君、南は熊本から松岡富士夫君と全国より集り、再会を喜び旧懐を紋し、出席されぬ学友の噂を語り、三十年前の学生気分に浸った。又来年元気で会おうよ。

◇**出席者前列左より**

斎藤夫妻、坂本、山田、平田、愛知、堤、佐藤寛夫妻、木村、高田、柳田、藤井、坪田、村上、安田、棟久、青沼、佐々木、加藤、渡辺、森戸、日高、岩田、阿曽沼上野、守、高橋、武井、館脇、吉峯、塩崎、臼井、田口、山下敏、浜田、栗山、吉井、小出夫妻、青木七、足立夫妻、山下岩、秋庭、石井、中、杉山、柳沢、松岡、古屋夫妻、佐藤俊郎、二瓶、岩崎、森、相原、江里口、水村、大橋、岡、後村、吉枝、小野寺、浅野、五十嵐の懐しくも嬉しそうな顔。

◇新年度幹事は愛知、高田両君、会計幹事田口君常任幹事堤君留任会費は年額千円と決定。因みに東京会の委員長は浅野君から二瓶君会計は石井君に留任願いました。

◇**三十周年記念事業として**

「記念アルバムと会誌」発行、（委員長小野寺君）「仁蜂会音頭」制定（作詩作曲水村君、振付二瓶君）「仁蜂会揃いの浴衣、手拭」製作（デザイン秋山君）加えて「欧州クラス旅行」（担当堤君）を六月挙行と大張り切りの総会決定何れ詳しくは後報に托しますが、東歯随一を誇るわが仁蜂会の実力を中外に見せましょうや。二十周年この方、物故会員なしのピンピンとした記録保持を続けましょう。

健康保持は何よりも「夢」を大いにふくらますことでしょう。そして今年は又うんと集りましょう。

堅久会

昭和十六年卒

本年は愈々待望の四国にてクラス会を開催する事になりました。徳島の石丸君のお骨折りで八月十四日（土）十五日（日）の一泊二日の予定で名物阿波踊りの見学を兼ねました。現在迄に約七十名の申込みがありますが先般皆様にお送り致しました通り成るべく大勢参加され盛大なクラス会を催し度いと思いますので未だ申込んでいない方は奥様、小供さん同伴でどんどん申込んで下さい。同封の振替用紙は毎年の事ながら本年度会費（千円）と阿波踊り出席の方は（一名につき五千円）合算して御送り下さい。

クラス会だより

写真は昨年十一月七日東京夜の観光の折浅草「駒形どじょう屋」前にて撮ったものです。（前原記）

新しい名簿作成の為返信用はがきは出欠に関係なくお送り下さい

いづみ会

昭和二十三年卒

菊の香薫る昨秋十一月七日、創立八十周年の記念事業に賑わう母校に集合したいづみ会会員五十有余名を乗せた貸切りバスは、夕闇に包まれた東京の街中へ母校を後に出発した。バスの中は久闊を叙する話がはずんだが、久し振りに見る東京の変貌か驚く旧友も多かった。第一の目的地はネオンの光輝く歓楽の町赤坂のミカドである。舞台正面の予約席について先づ乾杯!!

リバイバルソングをアレンジしたショーは戦前派の会員にとってはなかなか楽しいものであった。

ショーを見終えると次なる帝国ホテルへと向う。新装なった帝国ホテルのレストランシアターは席の半分は外人観光客で、ややエキゾチックで豪華なムードである。神楽坂浮子をフューチャーしたショーを見ながら各自希望のメニューの洋食コースを摂る。夜も更けてショーがフィナーレとなると東京の夜の楽しみを満喫した級友の顔は皆満足げであったが、そこはかとない別離の哀愁のうちに尽きぬ名残りを惜しみつつ再会を約して帝国ホテルで解散となった。

大成功をおさめた当日の企画は多忙を極める中久喜常任幹事と矢内会長の献身的努力によるもので厚く感謝の意を表したい。なお、来年度のいづみ会は北陸地方の級友の御世話で開く予定である。

（当番幹事市川記）

ジーベン会

昭和三十四年卒

昨秋十月九日に行なわれた第十一回新潟大会は、四十名を越える参加者のもとに北陸のムードを満喫、よき想い出をそれぞれの胸に秘めながらその幕を閉じました。

今回は、北海道の石井君、青森の工藤君を卒業後初めて迎え、久々に旧交をあたためることができ、新潟美人に囲まれながらの、遠来の友を囲んでの一杯は又格別で、天下に知られた〝鍋茶屋〟の壮麗な雰囲気にいささか酔いしおれたまことに優雅な一時でした。いたれりつくせり心からのおもてなし本当にありがとうございました。

一夜明けてのさまざまのハプニングもまことに多彩を極め、ほんとうに御苦労様でした。

思えば、昭和三十九年以来、毎年各地を廻って行なわれるジーベン会が、いつでも盛会裡に楽しく過せるのも各地幹事の献身的なお骨折とその都度個性ある企画に加え、広く、多くの会員の交友を常に忘れない友情の賜とありがたく思っております。ジーベン会としても何よりも尊い相互の友情を中心に更に進展することを期待いたしております。これまでお世話になった浜松、有馬、鬼怒川、岐阜神奈川各大会、それに今回の新潟大会での各幹事諸氏にわれわれ一同心からお礼申し上げます。

今年度の総会は、静岡県清水の丸山、佐々木両君のお世話で、日本で富士の最も美しい日本平の地で行なわれることになりました。富士の秀麗な姿を眺めながらの一献も又美味に過ぎることでしょう。何卒全員集合よろしくお願い致します。期日は九月二十四日総会と決定しておりますが、詳細は後日お知らせ致します。

今後も各地を廻ることと思いますが、担当なさる幹事諸氏には大変な事でしょうが、倍旧のお力添、切にお願い致します。卒業十五周年には、東京で盛大にと企画も具申しておりますが、いろいろとお尋ねしたいこともありますので、その節はアンケートに御協力方あわせてお願い申し上げます。

（若松記）

発行所　東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号
東京歯科大学同窓会
電話東京(二六二)三四二一(代)振替七六九〇四番
編集兼発行人　渡辺冨士夫